

今週（10月26日から10月30日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、1.227～1.228%近辺での出合いが中心となり、加重平均レートも週を通して1.227%となった。市場残高は3兆円台前半と概ね先週と同水準で推移した。

ターム物は、非当預先による付利以下での運用と、証券業態や一部銀行業態による実需での調達が中心となり、幅広い期間で引き合いが散見された。1.22～1.60%程度で出合いが見られ、3M近いロングタームではビッド水準を引き上げる動きが見られた。

日銀当座預金残高は、国債の発行や償還はあったものの週を通して大きく増減せず、410兆円台後半で推移した。

本日の日銀会合では、政策金利の現状維持を決定(賛成8・反対1)。あわせて、2027年1月からのETFの年間売却ペースを従来の3,300億円から8,600億円程度(簿価ベース)へ引き上げることを選定した。

●債券レポ市場

今週の債券レポ市場GC T/N物の出合い水準は、1.255%程度で推移した。参加者のしっかりとしたoffer姿勢が見られ、週を通して高めのレートで安定して推移した。

SC取引の個別銘柄では、2Y470～489回、5Y170～188回、10Y360～383回、20Y180～198回、30Y70～92回、40Y13～19回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンと6Mゾーンが堅調に推移した。

29日に実施された3M物入札では、強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、卸売、食料品、機械等複数の業態で大型発行が見られた。

市場残高は週初25兆円程度から緩やかに減少し、24兆円台半ばとなった。

発行レートは、1カ月以内のショートターム物では落ち着いた地合いが継続しているものの、12月の決定会合をまたぐロングターム物については、銘柄によって投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/26 (月)	62,189.65	2.780	157.20	1.227	1.250	4,183,000
10/27 (火)	63,268.37	2.785	157.65	1.227	1.250	4,182,700
10/28 (水)	63,954.19	2.825	157.84	1.227	1.250	4,180,500
10/29 (木)	64,659.47	2.835	157.97	1.227	1.250	4,189,700
10/30 (金)	63,290.11	2.770	157.50	1.227	1.250	4,185,100

翌週（11月2日から11月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
11/2 (月)	*10月の当座預金増減要因実績(日銀 13:00) *経済・物価情勢の展望全文(日銀 14:00)	GX5年物 11/4発行 2,500億円	*10月のISM製造業景況指数
11/3 (火)	*文化の日		
11/4 (水)	*10月のマネタリーベース(日銀 8:50) *財政等対民間収支(財務省 15:00)		*10月の消費者物価指数(HICP速報値) *10月の米ADP雇用統計 *10月のISM非製造業景況指数
11/5 (木)	*金融政策決定会合議事要旨(日銀 8:50) *11月の当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y物 交付税借入 11/6発行 11/18借入 26,000億円 12,000億円	*英中銀MPC
11/6 (金)	*9月の毎月勤労統計速報(厚労省 8:30)	TDB3M物 11/9発行 31,000億円	*10月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/2 (月) 日銀予想	▲ 700	▲ 8,100	▲ 8,800	社債等買入	▲ 100		▲ 100	▲ 8,900	TDB3M発行▲33,000 償還38,000 2Y発行▲28,000 償還19,900
11/3 (火) 弊社予想									
11/4 (水) 弊社予想	600	▲ 6,000	▲ 5,400					▲ 5,400	GX5Y発行▲2,500
11/5 (木) 弊社予想	800	▲ 5,000	▲ 4,200					▲ 4,200	交付税特会借入▲12,000 償還9,000
11/6 (金) 弊社予想	400	▲ 27,500	▲ 27,100					▲ 27,100	10Y発行▲26,000

●短期金融市場の見通し

無担保コールON物は、1.227～1.228%近辺での出合いが中心になると思われる。ターム物の出合い水準も引き続き1.22%～1.60%程度になると思われるが、3M物での資金調達ニーズや12月の利上げ折り込みの動向次第で、ロングターム物の出合いレートは上昇する可能性もある。債券レボ市場は、引き続きGC T/N物のレートは1.25～1.255%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、6日(金)に3M物(前回債から2,000億円減額)の入札が予定されている。CP市場は、月初発行にあたり、発行案件がどの程度膨らむか注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では2日(月)に10月の当座預金増減要因実績、4日(水)に10月のマネタリーベース、財政等対民間収支、5日(木)に金融政策決定会合議事要旨、11月の当座預金増減要因見込み、6日(金)に9月の毎月勤労統計速報、7日(土)に植田総裁講演(米IMF、現地6日)などが公表予定である。海外では2日(月)に10月のISM製造業景況指数、4日(水)に10月のユーロ圏消費者物価指数(HICP速報値)、10月の米ADP雇用統計、10月のISM非製造業景況指数、5日(木)に英中銀MPC、6日(金)に10月の米雇用統計などが公表予定である。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入